42. 肺原発悪性リンパ腫の1例

阿部雄造，林　淳弘，松島保久
（松戸市立・内科）
浅沼勝美　（同・病理）
安福和弘，大岩孝司
（東松戸病院・呼吸器外科）
三方淳男　（千大・一病）

症例は60歳女性。胸部エックス線写真上腫瘤影を指摘され，TBLBにて悪性リンパ腫と診断。肺に限局していたため手術を施行し，切除標本によりBALTリンパ腫と確認された。また腫瘍細胞表面マーカーはCD19(+)，CD20(+)，CD5(−)，CD10(−)でありREAL分類におけるmarginal zone B-cell lymphomaと診断した。

43. 胸腔鏡で診断した悪性胸膜中皮腫の1例

寺沢公仁子，堀江美正（千大・肺内）
高野浩正　（同・肺病）

症例は54歳，女性。健康診断で胸部X線上，異常陰影を指摘され近医を受診。胸部CTにて左胸水及び胸膜小結節影を認め胸水細胞診にて腺癌細胞が検出されたため，当科紹介入院となった。転移性癌を疑い原発巣の精査を行うも不明のため気管支ファイバーを用いて胸腔鏡検査を行い生検にて確定診断した。本症例は発見時既に腫瘍が胸膜上にびまん性に存在し，6ケ月後に腹膜浸潤により死亡した。原因不明の悪性胸水をみた場合は積極的に胸腔鏡検査を行うべきでとくに悪性胸膜中皮腫はそのよい適応であると思われた。

44. 原発性肺肉腫と考えられた1例

平野　聡，堀江美江，小方信二
尾世川正明，柳沢孝夫，松岡祐之
（成田赤十字・内科）

症例は81歳，男性，主訴は発熱，咳嗽。初診時，胸部X線写真上，腫瘤影を認め，肺癌が疑われた。早期に十二指腸に転移し，大量下血を呈した。生検材料を検討したところ原発性肺肉腫と考えられた。生検材料のみからの組織診断は困難であった。本症例においては放射線療法が奏功した。

45. 同時性肺多発癌の1手術例：診断及び術後管理を省みて

和田源司（渕野辺総合・呼吸器科）
佐藤幸一　（同・外科）
水口國雄　（帝京大・市原）

症例70歳男，胸部Xp上右S^{9}，左S^{H2}に腫瘤影あり，擦過細胞診にて夫々角化型，非角化型偏平上皮癌。右下葉切除，次いで35日目左上葉切除。病理組織診にて，リンパ節転移なく，同じ偏平上皮癌であるが，前者角化型，中分化に比し，後者非角化型，低分化で多発症と判定した。本例は妻が当院で，十二指腸乳頭部癌でPD施行されたが約1年，右下葉切除直後，癌性悪液質で死亡する精神的ショックも加わり，左上葉切除後48日で失い，術後管理を反省した。

46. 子宮筋腫術後12年目に発見されたBenign metastasizing leiomyomaの1例

藤野道夫，（塩谷総合・呼吸器内科）
渡邉　哲，池田雄次，端迫　清
瀧澤弘隆　（同・呼吸器外科）

子宮筋腫の既往のある60歳女性。検診で左中肺野に増大する腫瘤影を指摘され，精査にて両側肺末梢に多発性腫瘤影を認めた。組織学的および臨床的に，良性転移性平滑筋腫と診断した。本疾患は比較的稀で，本邦報告26症例の文献的検討を加え報告した。

47. 腎細胞癌手術30年後に発見された転移性肺癌の1例

船橋秀光，江渡秀紀，須藤真児
中村昭子，加藤正一
（東京厚生年金・内科）

30年前，腎細胞癌にて右腎摘出術施行。1995年，胸部X線にて2個の2cm大のcoin lesionを指摘されTBACにて腺癌と診断。転移性肺癌を考え原発巣検索するが不明。1年後，癌性腹膜炎にて死亡。この間に胸部X線上転移性肺癌は変化なく，8年前の胸部X線でも1cm大の転移が確認され，臨床経過より非常に緩徐な経過をたどった腎細胞癌の肺転移と考えられた。

48. 切除後7年で右中葉に多発転移をきたした右下葉肺腺癌の1例

久　伸輔，飯笹俊彦，安川朋久
（千大・肺外）
高野浩昌，廣島健三（同・病理）

症例は50歳男性。1988年9月右S_9原発性肺癌にて右